

夢を通じて「生き方」を学ぶ

世界中のかわいい若者の姿に出会える一冊



世界のZ世代、ミレニアル世代の
「夢」から僕らは何を学ぶ？

価値観

課題

生き方

未来

平和

SDGs

etc...

ソーシャルビジネスの生みの親、ノーベル平和賞受賞者の

ムハマド・ユヌス氏 絶賛

総合 / 道徳 / 国語 / 社会 / 英語 / 理科 / 数学 / 家庭 / 保健体育
探究 / 地歴・公民 ご担当の先生・図書館司書の方々へ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

校内でご回覧ください。

夢×SDGs

人を知って、夢を知って、世界を知る

はじめまして、

いろは出版 代表であり、詩人の「きむ」こと木村行伸です！

僕たちは、2006年に出版した『1歳から100歳の夢』をはじめりに

いろいろな方に夢を書いていただき、夢の本シリーズをつくってきました。

夢を書くと、その紙の上に、今までの人生で見て感じたこと、

これからの人生でやりたいこと、等身大の自分がありのまま現れます。

そして、それはあらためて自分の大切なもの、自分の生き方の発見にもなります。

たくさんの方々と夢の本をつくってきた経験から、夢を書いて本をつくる授業や

講演を行い、子どもたちに夢に向かって生きる魅力や考え方を伝えています。

子どもたちと語り合う時間の中でいつも感じることは、

悩みあぐねながらも、心の奥ではいつも夢を持ちたいと思っています

自分の生き方を探しているということです。そして何よりキラキラの可能性を感じます。

夢や生き方を探している子どもたちに

いろいろな人の夢を読むことで、いろいろな人生があることを知ってもらいたい。

自分の未来にワクワクしながら、大人になることが楽しみになってもらいたい。

そんな想いで僕たちは、今日も良いきっかけをお届けできるように活動しています。

そして、そんな僕たちの渾身の一冊が

『WE HAVE A DREAM 201ヵ国 202人の夢×SDGs』です！

本書は「世界中の人の夢を集めた一冊をつくりたい」という

一人の日本人の若者の夢から始まり、世界中の方に共感いただき生まれました。

IからWeへ、一人の夢がみんなの夢になることで、

信じた未来をみんなでつくれたという希望の一冊でもあります。

そして、その共感してくれた201ヵ国202人の若者たちが書きあげてくれた

「夢×SDGs」——自分の夢を通じて、SDGsの達成に貢献しようとする

力強くも等身大の物語が本書には詰まっています。彼、彼女らの物語を読むことで、

「世界の今」と、未来を切り拓く「生きる力」を学ぶことができるのです。

子どもたちが夢を描いて生きていく舞台は、この地球です。

SDGsという2030年に向けた国際目標に向けて世界が動いている中で

この地球に生きる一人として夢を描き、より良い人生をつくってほしい。

「人を知って、夢を知って、世界を知る。」

同じ今を生きる人の気持ちを知り、世界中の人を身近に感じて学べる本書は、

子どもたちから多くの「問い」を生み出す可能性を持った本だと信じています。

そこで、僕たちから先生方をお願いなのですが、ぜひ、一緒に

子どもたちの今と未来をつなぐ生きた教材として本書を育ててもらいたいです。

僕の夢は「子どもたちが自分の夢に自由に向かえる世界」をつくることです！

成長の現場にいる先生方と一緒に、愛を根っこにして、心に学びを届けることで

子どもたちの夢と生きる力が育つ応援ができれば僕たちはすごく嬉しいです。



いろは出版
代表 木村行伸（詩人 きむ）



世界201カ国の人の夢が一冊に!



PAKISTAN

パキスタン

未来は教室から生まれる

心を変え、国を変えられるのは、教育だけだと信じています。私の夢は、人生を変えることができる教師になることです。教えることは単なる職業ではなく、情熱です。教師は未来の世代の開拓者であるからこそ、社会の変化の担い手なのです。

父は私が幼い頃に亡くなりました。社会的な圧力により、母はひどい暴力

をふるう男性と再婚しました。そのため、私は母と離れて暮らさざるをえず、親戚の家を転々とするようになりました。私は、「子ども時代」のない子どもでした。5歳にして心に傷を負い、痛みと苦しみのなかを生きてきたのです。自殺寸前まで追い込まれたことも一度ではありません。

私には、親をなくした子どもや恵まれない子どもが質の高い教育を受けられないとき、どんな気持ちになるのかが分かります。そういう子どもたちのために、私は教育者になったのです。しかし、私自身、学業を続ける上で、多くのハードルがありました。大学の費用はアルバイトをしてすべて自分で稼ぎましたが、最終的に私を引き取ってくれた伯父一家のサポートもあって乗り切ることができました。卒業後は教えることへの情熱と懸命の努力が実を結び、ある有名な組織に就職しました。パキスタンのシンド州の僻地にある学校に、ティーチング・サポート・アソシエイトとして派遣されました。今では、国連の市民教育ボランティアとして働いています。

シンド州にいた頃には、私のキャリアのなかでも最も印象に残る出来事の一つがありました。とても優秀な生徒がいたのですが、あるとき、彼女の成績が下がっていることに気がつきました。理由を尋ねると、両親が彼女を結婚させようとしていることが分かりました。私は彼女の両親に電話をかけて説得し、どうにかして両親は彼女に勉強を続けさせてくれました。そのときに考えたのは、同じような状況で苦しんでいる子どもは大勢いるのだろうということです。親を失った子どもにとっては、状況はさらに過酷なはず。このことは、夢の実現に向けて進む私の背中を、強く押すことになりました。

私は子どもの頃に苦しみました。同じ苦しみを誰にも味わわせたくありません。この混沌とした世界のなかで子どもたちが孤独を感じる必要はないし、また子どもたちに、世界は終わることはないと思ってほしい。

私は自分が住んでいる地域に恩返しをし、苦しみのさなかにいる人や、自分の生活をより良くする手段を持っていない人たちみんなのために、社会をより良い場所にしていきたいと考えています。国の未来を決めるのは、学校の教室です。この信念を胸に、国家を繁栄させようと教育にエネルギーを注ぐ人たちのなかに立つことを夢見ています。

ジョン・ジェームズ

ASIA

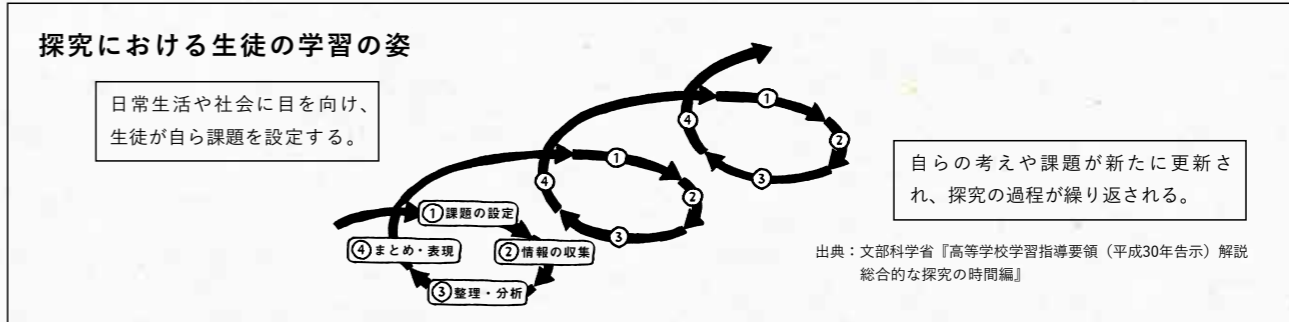
SOUTHERN ASIA

440



POINT ① 「生きる力」を育む夢のストーリー

『WE HAVE A DREAM 201ヵ国202人の夢×SDGs』には、家族や地域、国、そして地球のために問題を解決しようと取り組む若者たちが登場します。答えのない問いに向き合い、自分なりの答えを見つけること、あきらめることなく多面的に考えること、仲間と力を合わせて取り組むこと。自分の力で未来を切り拓こうとする、その姿からは「生きる力」が伝わってきます。夢に向かって自ら考え進む202人の姿は、変化の激しい時代を生き抜くため探究的な学びを必要とする日本の子どもたちにとってロールモデルとなるはずです。



ポートレート

本書のためにナナさんが撮影してくれた写真（自分の夢や人柄が伝わるように各国代表者こだわりの写真を掲載）。



GHANA
ガーナ

お腹いっぱい幸せに眠れる世界

空腹のまま眠って、そのまま亡くなってしまふ。そんな人が世界からいなくなるのが私の夢です。

2000年代のガーナでは飢饉も戦争もなく経済が成長していました。しかし、飢餓がはびこり続け、人々の命を奪っていました。親が子を失い、子が親を失いました。ソガコベという町に住んでいた私にも、何日もご飯

夢

課題

国が抱える問題と、それに直面したナナさんの経験。

が食べられなかったり、飢えや栄養失調で亡くなったり、生きていくために危険を冒し、苦しい生活から抜け出せない友達がいました。2015年、ガーナの飢餓人口は半減し、ミレニアム開発目標（MDGs）ターゲット 1.C^{*8}を達成しました。しかし、いまだ人口の5%が慢性的な飢餓に陥っています。^{*9}1人の若者でしかない私は無力で、政府だけが変化をもたらす力を持っていると思い込んでいました。

そんな考えを変えたのは、22歳のときに参加した Barcamp Ghana というプログラム。私と同じように感じていた参加者もいたのですが、プログラムの司会者からこう問われたのです。「課題解決を政府に任せきりにしてしまうなら、社会のなかでのあなたたちの役割は何ですか？」と。私たち若者が立ち上がらなければと思いました。

そこで、私は友人とともに、Amaba Health and Humanitarian Aid (H&H) Volunteers Ghana という NPO を立ち上げようと決めました。路上生活をしている貧しい移民のお年寄りや子どもたちに食事を提供するためです。しかし、世界から飢餓をなくすという夢を実現するには、もっと何かしなければなりません。

現在、私はグローバルな視点とスキルを身につけるべく、カナダの大学院で経済学を学んでいます。カナダは多様な文化を持つ国。ここでは国際的なネットワークをつくり、意見を交換することができます。私の専攻は国際貿易。自由貿易こそが世界の貧困層で生きる人々に手頃で栄養のある食べ物を与えられると考えています。私の長期的な目標は、幅広い経済知識を、ガーナやアフリカの国際貿易政策の要となる人たちに提供することです。

飢餓で亡くなった友達は、可能性を最大限に発揮することができませんでした。彼らは、この国の「失われた可能性」です。もうこれ以上、私の友達のような悲劇を繰り返してはいけません。私の夢は世界の繁栄であり、人々が家族とともに栄養のある食事ができることです。その世界では、お腹を空かせたまま眠り、命を落とす人は誰もいません。

ナナ・クワク・アサモア

SDGsアイコン



夢を通じてナナさんが達成に貢献するSDGsのテーマ（各ページでは、夢に関連するSDGsを最大3つまで表示）。

自分ごと化

自分の生き方を考え、社会問題を自分ごととして捉えるきっかけ。

行動

自分にできることから行動を始めるが、課題の大きさに気づく。

目標設定

目標を立てて、必要な知識・能力を身につけるため留学を決意。

夢

夢描く世界へのナナさんの強い想い。

※実際の書籍では、本文にカラーガイドはついていません。

POINT ②

世界のZ世代、ミレニアル世代が描く未来像を知る



KOSOVO

多様性は虹のように美しい

「アパルトヘイト」のような人種差別制度がなくなり、多様性を尊重する社会が実現することを夢見ています。多様な人種や文化が共存し、互に学び合える世界を想像しています。多様な人種や文化が共存し、互に学び合える世界を想像しています。

この世代は多様性を尊重する社会を夢見ています。多様な人種や文化が共存し、互に学び合える世界を想像しています。多様な人種や文化が共存し、互に学び合える世界を想像しています。



UKRAINE

侵略ではなく共創しよう

戦争や侵略ではなく、互に学び合える世界を想像しています。多様な人種や文化が共存し、互に学び合える世界を想像しています。

戦争や侵略ではなく、互に学び合える世界を想像しています。多様な人種や文化が共存し、互に学び合える世界を想像しています。

世界の若者たちはどのような経験から課題を見出し、解決に向けてどのように行動し、その先にどんな未来を夢見ているのでしょうか？

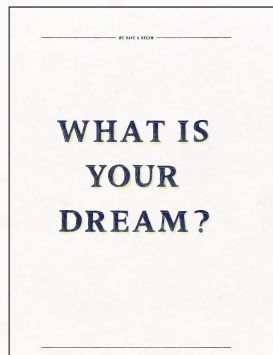
201カ国・地域から一人ずつ選んだ代表者が本書のために夢のストーリーを書き下ろし（コンボのみ2人で1篇の原稿を執筆）。本書には、世界中の若者たちが描く理想の未来像が詰まっています。

動物でいっぱいの緑の地で暮らすことを夢見てウクライナで自然保護活動に取り組む9歳のオレクサさん。コンゴで民主主義を実現させようと35歳の若さで大統領選に挑戦するアンドレアさん。若者の手で平和の世界を実現できると信じ「18億人いる私たち若者はアイデアであり、夢であり、行動そのもの」とイラクで語る19歳のアブデュラさん。人によって夢は千差万別。しかし、より良い世界をつくらうという想いは同じです。

未来をつくる若者の夢から来たるべき世界の姿が浮かび上がってきます。

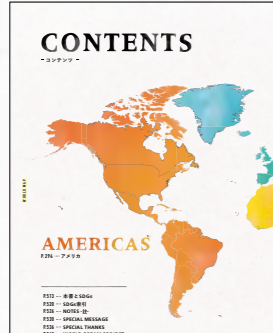
POINT ③

202通りの生き方から「自分らしい生き方」を学ぶ



WHAT IS YOUR DREAM?

202人、202人の夢。多様な生き方を知り、かっこいい生き方に出会うことで、自分らしく生きるとはどういうことなのかが見えてきます。



CONTENTS

EUROPE、ASIA、AFRICA、AMERICAS、OCEANIA

「あなたの夢はなんですか？」夢を探す方法のひとつ、それはいろいろな人の「生き方」に触れること。さまざまな生き方を知り、かっこいい生き方に出会うことで、自分らしく生きるとはどういうことなのかが見えてきます。

本書では、この地球で同じ今を生きる人たちの夢を通じて、多様な生き方をはじめ、多彩な価値観、多岐にわたる課題など、いろいろな世界を知ることができます。202人の生き方はひとつとして同じものはありません。多種多様な夢に触れると、「私もSDGsに貢献することはできるの？」「自分の住む街の課題を解決できる？」「どうやって進路を決めればいい？」「私の夢ってなんだろう？」など、さまざまな問いが生まれてきます。それはきっと“自分らしい生き方”を探すヒントとなるでしょう。

POINT ④

一人ひとりの声を聴くことで深まる国際理解



ISRAEL

サステナビリティでつくる中東の平和

持続可能な開発目標（SDGs）を達成することで、中東の平和を実現したいと考えています。持続可能な開発目標（SDGs）を達成することで、中東の平和を実現したいと考えています。

持続可能な開発目標（SDGs）を達成することで、中東の平和を実現したいと考えています。持続可能な開発目標（SDGs）を達成することで、中東の平和を実現したいと考えています。



PALESTINE

すべての挑戦はチャンスである

すべての挑戦はチャンスである。困難を乗り越え、成長を遂げることを夢見ています。困難を乗り越え、成長を遂げることを夢見ています。

すべての挑戦はチャンスである。困難を乗り越え、成長を遂げることを夢見ています。困難を乗り越え、成長を遂げることを夢見ています。

聖地をめぐる今も争いを続けるイスラエルとパレスチナ。しかし、本書に登場するイスラエル人のタマラさんとパレスチナ人のカレドさんはどちらも中東の平和を願っています。

また、2020年に勃発したアゼルバイジャンとアルメニアの紛争を身をもって経験したアイスンさんも、「みんなにとって心休まる世界」を夢見て、若者の力で平和をつくっていくことを訴えています。

ニュースで見かける紛争地帯で暮らしているのは、争いを好む人ばかりではありません。一人ひとりの声に耳を傾けることで見えてくる世界があります。

各国から届いた「生の声」は、メディアから情報を受け取るだけで満足するのではなく、多面的・多角的に考え、そこに暮らす人々を想像することの大事さを教えてくれます。

POINT ⑤

人生ストーリーからSDGsを学ぶ



SDGs INDEX

SDGs INDEX. A grid of icons representing various Sustainable Development Goals.



Keep Dreaming

Keep Dreaming. An illustration of a mountain with a flag on top, symbolizing dreams and goals.

SDGsを学ぶ授業やワークショップで活用いただけるように、巻末にSDGs索引を収録。興味のあるテーマを探ることができます。

カトリック教徒の父とイスラム教徒の母のもとに生まれ、宗教間の対立を解消しようと奮闘するアリッサさん（SDG16）。

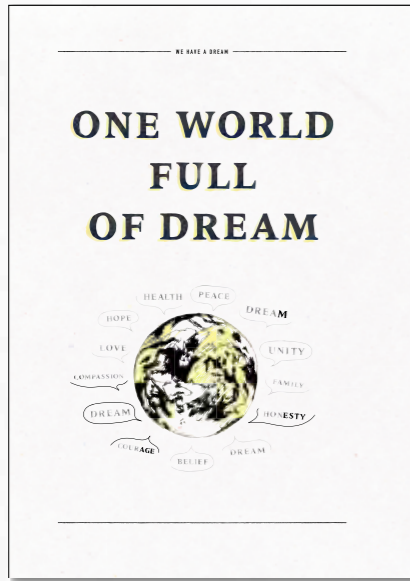
幼い頃に父をなくし、自分と同じ苦しみを子どもたちに味あわせたくない、教師として子どもたちを支えるジョンさん（SDG4、16）。

海外の工場の劣悪な状況を知り、サステナブルな生き方に取り組み始めたベルギーの建築学生、ルイスさん（SDG11、12）。

こうした人生ストーリーから、人の数だけSDGsの取り組み方がわかります。大切なのは、これまでの経験や興味、関心といった自分らしさを軸にSDGsを捉えること。それはSDGsの自分ごと化の始まりです。

POINT ⑥

世界を良くする思いやりのリレー



本書に登場する202人には共通点があります。それは、病気のお母さんであったり、貧困に苦しむ友人であったり、目の前の人を大切にする優しさから夢が始まり、自分の手が届く小さな世界から行動を始めているということです。誰かへの優しさは自分への優しさ、地域や社会への優しさにつながり、めぐりめぐって地球に対する大きな優しさに育ちます。身近な環境を変えることも、世界を変えていくことも、すべては思いやりの心から始まります。生きとし生けるすべてを思いやり、優しさの輪を広げていく。202人の夢の背景にある想いに触れることで、思いやりの大切さを実感することができます。

POINT ⑦

英語は世界中の人とつながるツール！



 **REPUBLIC OF THE GAMBIA**

Girls' Pride

I was born and raised in a community where menstruation and everything about sexual and reproductive health is taboo. No one discusses such issues openly. Only a few people discuss them and educate their children behind closed doors. These are people from middle class or wealthy families, or educated mothers.

In my country The Gambia, the lack of access to menstrual hygiene products and adequate facilities (clean water, toilets, dustbins) for menstrual hygiene management at home, community markets, schools, and workplaces is and continues to be a major problem. I went through puberty without access to adequate knowledge about periods and other sexual or reproductive health issues that affect adolescents. I never had anyone to discuss my period with, how to take care of myself, manage my cramps, or anyone to buy sanitary pads for me. Since I was born in an extended family, my parents struggled to feed us and ensure we all had quality education. I used to save part of the money my parents gave me to buy food during break at school to buy sanitary pads every month. The pads I bought were never enough or of good quality because I could only afford the cheapest. Getting money to buy pads was difficult, however, walking in a shop in my community to buy pads was the most challenging part.

My story is not unique. Period poverty affects many less privileged women and girls around the world. As a nurse, I used my knowledge, skills, and experience to start Girls' Pride, a social enterprise that provides reusable sanitary pads, pantyliners, and period panties. I also train women and girls on menstrual hygiene management, Sexual and Reproductive Health and Rights (SRHR) instructors, and hold courses on sanitary pad production. In addition, I am working on storybooks and games to teach school girls and people in The Gambia about period poverty. Through this initiative, I hope to keep girls in schools during their periods. When a girl is able to complete her education, achieve her dream of becoming a lawyer or scientist, she will contribute to national development and empower other girls.

As a feminist, I dream of a world where adolescents, women, and men all have equal access to sexual and reproductive health products and services without any form of discrimination.

Fatoumatta L. Kassama

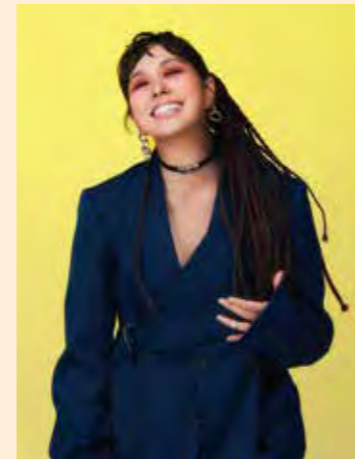
なんのために英語を学ぶのか？ 英語を学んだ先には、世界中たくさんの人の笑顔があります。

フランス語、スペイン語、オランダ語、広東語、アラビア語……。201ヵ国・地域で話される言語はさまざま。しかし、202人が共通で話せる言語、それが英語です。本書の制作では各国の代表者に英語で原稿を書いてもらいました。英語版（タイトル『WE HAVE A DREAM 201Countries 201 Dreams with Sustainable Development Goals』）では、それぞれの代表者が一語一語にこだわった原文で夢のストーリーを読むことができます。英語を使えば世界中の人々と交流できることを実感できる一冊。英語学習にもおすすめです！

POINT ⑧

世界のトップリーダー推薦！

互いの夢を知り、学び合い、手を取り合う。そんなきっかけをつくる本をつくりたい。その想いに共感して、若者だけでなく、各分野を牽引する著名人が本書のためメッセージを送ってくれました！



AI

アイ
アーティスト

誰だって夢を見れる世界！これ最高！お互いを知って助けあえたらそれも最高！この本が、この中の一人一人が、これを読んでもあなたが、時にヒビの入った世界を繋げてくれるような気がしました。新しい"未来"を"楽しみ"に変えていけますように。Let's dream!!!!



Muhammad Yunus

ムハマド・ユヌス

ノーベル平和賞(2006年)、グラミン銀行創設者

何かを実現させたいのなら想像力を働かせなさい。この本は、人類が想像力を働かせ、不可能を可能にできると教えてくれる！若者は、自分の生きたい世界を想像しなければならない。想像力がこの世界の未来をつくっていくのだから。



Mary Robinson

メアリー・ロビンソン

アイルランド元首相、The Elders会長

持続可能な開発目標（SDGs）は、すべての人にとってより健康的で、より公平で、より平等な未来を実現するための青写真です。この目標に到達するために私たちが一緒に創造しなければならないより良い世界があり、その世界を夢見る若いリーダーたちの重要な声と経験をこの本は捉えています。

本書では、他にもオランダ元首相のヤン・ペーター・バルケネン氏 / 欧州評議会事務総長のマリヤ・ペイチノヴィッチ・ブリッチ氏 / 元中華民国外交部長のユージン・チェン氏 / エアアジア・グループCEOのトニー・フェルナンデス氏 / 元NASA宇宙飛行士のロン・ガラン氏 / 国際赤十字・赤新月社連盟会長のフランチェスコ・ロッカ氏 / リベリア元大統領（アフリカ初の女性大統領）のエレン・ジョンソン・サーリーフ氏 / コフィー・アナン財団理事長のエルハジ・アズ・サイ氏 / ブータン王太後のドルジェ・ワンモ・ワンチュック氏など世界のトップリーダーたちから届いたメッセージをご覧ください。

先生方からの声



石川翼 先生
同志社国際学院初等部 6年生担任

本校は国際バカロレア認定校であり、6年生では昨年度よりSDGsにフォーカスしたUnitを6週間の枠で設けております。また、6年生は毎年1月にExhibition（卒業論文に当たる学びの発表会）に取り組んでおり、今回こちらの書籍に出会うことができ、より深い探究活動が期待できるようになりました。今、『WE HAVE A DREAM』のような本を子どもたちとつくりたいと考えています。子どもたちがこの探究の時間を経て、どのようなアクションを起こし、どのような夢を持ってくれるのが今からとても楽しみです。



森下奏恵 先生
浜松市立浜名中学校 理科

私は理科教員として「実物を見せたい」「生きた教材を使いたい」と常に思っています。その方が子どもたちのより深い理解につながるからです。道徳の内容項目に「国際理解」がありますが、教科書等には、客観的な事実や過去の出来事をもとに書かれたものが多いと感じていました。それぞれの国に生きる人の、生の声が詰まったこの本は、「生きた教材」といえます。この本に登場する202人の方々のように、子どもたちが胸を張って自分の夢を語れるように育てていきたいと思いました。



渡邊 久暢 先生
福井県立藤島高等学校 教頭

夢が持てない、と日本の多くの子どもたちが考える中、この本には世界201ヵ国202人の夢が語られています。彼らは、身のまわりの状況から自分自身で課題を見つけ、その最適解を探究的に求め続けることを通して、自らの夢を創造しています。もちろんその夢は、自分ひとりの幸せを実現するためのものではありません。主語は「私たち」。「The Future We Want（私たちが実現したい未来）」が創造されているのです。「総合的な探究の時間」における導入場面等で、彼ら一人ひとりがどのように課題を見つけ、解決の方法を模索し、「私たちの夢」として創造しているのか。この「探究プロセス」を生徒がこの書から読み解くことは、その後の探究学習を充実させるとともに、キャリア意識を高めることにもつながります。生徒一人ひとりが、どう読み解いて自身の探究につなげていくのか、私自身も楽しみです。



大橋敏明 先生
小浜市立小浜中学校 英語

「何が起きても夢を描き続けよう。」本にあったこの言葉が目にとまり、心に強く残りました。誰しにも勇気を与える力強い言葉。予測不能な時代において私たちの生きる道標となるのが「夢」なのだを再認識しました。夢を語る各国の代表者をはじめ制作に携わった人たちの「想い」と「熱」を感じ、子どもたちに読んでほしいと思いました。この本はきっと子どもたちを前向きにし、夢を与えてくれるでしょう。「英語」という、異文化理解を意識した外国語の教科でこそ、この本を活用し、子どもたちに世界の多様な価値観に触れてほしいです。



中村誠 先生
浜松市教育委員会 教育センター 指導主事

「どの国の夢が心に残ったか？」と問われると、ひとつを選ぶことはできません。ただ、多くが「平和」「平等」「自由」に関わるものであるということが印象的でした。やはりそれらは世界共通の希望なのだと思います。中でも「教育」に関わるものは特に嬉しく思いました。だって、世界を変えるのは政治や軍事ではなく、やはり「教育」だと思うからです。



木戸脇千景 先生
高山市立松倉中学校 保健体育

私が担当している3年生は、総合学習でパラリンピックを柱にかっこいい大人に触れ、挑戦すること、支える人のこと、夢を考え語ることが楽しいことを学んでいます。『WE HAVE A DREAM』で夢を語る若者は、かっこいい。この本を読み、国名さえ知らない国の若者の言葉であっても、夢を知ることその人を知り、生き方に触れることで、応援したくなったりもしました。子どもたちにとって、この本は教科書には載っていない、世界のリアルを知る教科書になると思います。この本が、子どもたちの憧れ、道標、夢を考えるきっかけになることを期待しています。

制作チームからのメッセージ



世界のあちこちで、社会課題を解決したいと挑戦する若者の「夢」をひとつに集めた本をつくりたい。その想いをSNSで発信すると、共感してくれた友だち、さらに今まで知らなかった国の人までもが夢を綴って原稿を送ってくれました。応募が殺到した国もありましたが、大切にしたいのは想いと行動が一致しているかということ。SDGsのために何かしなといけない（should）というのではなく、誰かのためにこれをしたい（want）という強い気持ちを感じてもらえたらと思います。

（ディレクター / 日本代表 市川太一）



一人ひとりの夢や想いがより伝わるように、温度感を大事にしながら、その人にしかない言葉を引き出すことを心がけました。寄せられた言葉から、まわりの人や地球の未来を幸せにしたい想いがSDGsにつながるのだと気づかされました。

（日本語版編集 岩花京太郎）



201ヵ国の方々とやりとりする中で、たくさん発見や学びがありました。インターネットと英語を使えば地球の裏側にいる人ともすぐつながれるのだとあらためて実感しました。本を通じて、世界を身近に感じてもらえたら嬉しいです。

（英語版編集 村瀬真奈）



各国の代表者さんが夢について語った原稿を何度も読み、撮影場所や服、表情を考え撮影をお願いしました。文章だけでなく写真からも、各国の文化や空気感、本人の等身大の姿が伝わるようにこだわっています。

（写真ディレクション 日比康二）

CHECK! ▶ https://hello-iroha.com/tag/kikumimi/?utm_source=qr&utm_medium=booklet&utm_campaign=school_202108

いろは出版のホームページで本づくりの裏側や制作チームの想いを詳しくご紹介しています。

夢の本シリーズのご紹介

IROHA BOOK SHOP ▶ <https://irohabook.base.shop/>

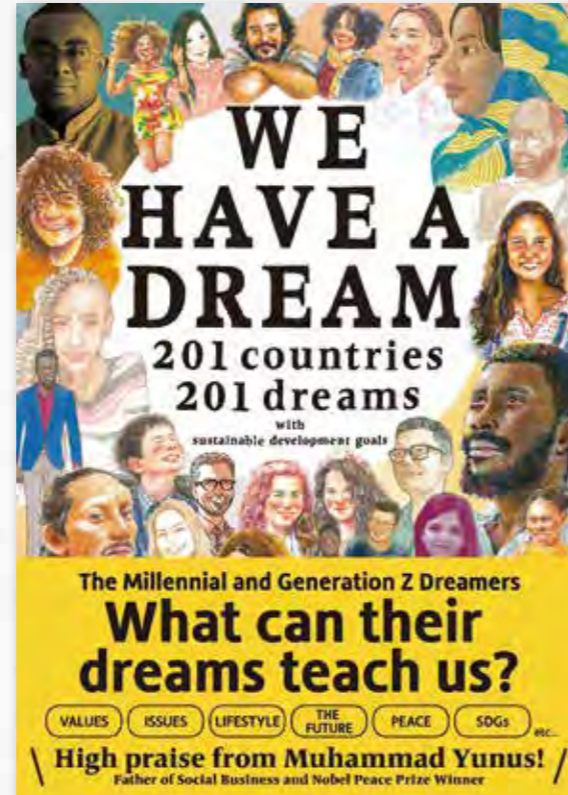
こちらのWEBショップでは先生向けに夢の本シリーズを取り揃えております。



【日本語版】ISBN : 978-4-86607-194-7

WE HAVE A DREAM
201カ国 202人の夢 × SDGs

編 : WORLD DREAM PROJECT 仕様 : A5判 544ページ
定価 : **2,860円** (税込)



【英語版】ISBN : 978-4-86607-193-0

WE HAVE A DREAM
201 Countries 201 Dreams with Sustainable Development Goals

編 : WORLD DREAM PROJECT 仕様 : A5判 544ページ
定価 : **2,860円** (税込)



1歳から100歳の夢
2,090円 (税込) / ISBN 978-4-90209-708-5



中学生の夢
1,980円 (税込)
ISBN 978-4-90209-717-7



高校生の夢
1,980円 (税込)
ISBN 978-4-90209-718-4



先生の夢
1,980円 (税込)
ISBN 978-4-90209-719-1



働く人の夢
1,320円 (税込)
ISBN 978-4-90209-722-1



家族への夢
1,320円 (税込)
ISBN 978-4-90209-723-8



アスリートの夢
2,090円 (税込)
ISBN 978-4-90209-725-2

授業実践例を募集しています!!!

『WE HAVE A DREAM』をはじめ夢の本シリーズを活用した授業の実践例やアイデアを募集しています。朝読書、課外活動、必修科目など、皆さまがお考えになった授業の内容をどんどんお寄せ下さい。授業実践例をお送りいただける方には、電子データ (PDF) を無料でご提供しています。ご希望の方は、学校名、お名前、ご担当科目などを明記のうえ、メールにてご連絡ください (ご購入いただいた夢の本シリーズをコピーして授業でご利用いただく場合、許諾は必要ありません)。


また、詩人きむの夢の講演や授業も全国で行っております (夢と目標の違いや、大人になる楽しさなどを伝えています)。ご興味のある方は、お気軽にご相談 & ご依頼ください!

お問い合わせ窓口 info-d@hello-iroha.com

いろは出版について



いろは出版の設立は2001年。人の想いを大切に、明日がより豊かになるような本をつくり、世の中に届ける。その想いを胸に、これまで夢の本シリーズをはじめ、『寿命図鑑』や『失敗図鑑』など、さまざまな本を生み出してきました。楽しいことが大好きなメンバーたちが集まり、出版社という枠を超えて文具や雑貨、似顔絵の制作にも取り組んでいます。自分たちがつくったものから愛や夢、おもしろさを感じ、目の前の人に、世界中の人に喜んでもらえるように、全力でものづくりをしています。

いろは出版 

〒606-0032 京都市左京区岩倉南平岡町74番地

TEL: 075-707-1168 FAX: 075-712-1681

MAIL: info-d@hello-iroha.com



▼ 夢の本シリーズは、詩人きむが編集長として仲間たちとつくっています！



詩人 きむ (本名 木村行伸)

いろは出版 代表 1980年生まれ

20歳の時、京都の路上で詩と写真を組み合わせたポストカードを販売。言葉の力をきっかけに「いろは出版」を設立し、ポストカードは累計1,000万枚、きむ作品集は累計120万部を越え、多くの人に言葉を届けてきた。さらに『1歳から100歳の夢』を始めとする夢の本シリーズを制作し、子どもたちの夢に向かって生きる力を育むため、全国で夢の講演や授業を行っている。2021年、世界中の人の夢を集めた『WE HAVE A DREAM 201ヵ国 202人の夢×SDGs』を出版。仲間たちと共により良いものづくりを通して、日本を世界をより良くするため楽しく挑み続けている。

いろは出版 IROHA PUBLISHING

